

社会福祉法人 太陽学園機関紙

たいよう

編集・発行

社会福祉法人 太陽学園

福島市桜木町11-16 TEL024-534-5397

障害福祉サービス事業所 太陽学園(通所)

福島市桜木町11-16 TEL024-534-5397

障害者支援施設 福島おおなみ学園(入所)

福島市大波字水戸内19-2 TEL024-588-1822

共同生活援助 伊達ホーム

伊達市田町41-3

発行責任 社会福祉法人 太陽学園

人工知能

太陽学園 園長 武田 万昌

インターネットとか、人工知能(AI)とか、ロボットなどの技術革新が進んで、「これから10年」など想像もつかない様な世界になる様な錯覚をしてしまいます。

自動車など自動運転が発達するらしいし、また人工知能で英会話など自動翻訳し、想像もつかない機械(コンピューター)で瞬時に翻訳される。喋ったり聞いたりするのは手元のスマホを通して会話が進むようになる。

意思伝達、説明がスムーズにいくためのコンピューターが自動翻訳しやすい日本語を話す練習をした方が手取り早い。それで、人間関係のとり方なども人工知能の助けを借りてコミュニケーションのとり方の苦手な人でも為になる機能ができるようになる。

「これは虐待か」の判断は人工知能が「それは虐待だ」とか「それは駄だ」と瞬時に判断してくれる。よく言われる意思決定の機能が、人工知能を頼りにする時代が来ると、知的障害者の意思決定をとにかく言うより、我々の方が意思決定するのに頼りにするのは人工知能となるのではないか。そういう時代が来るの!

最近の一番のショックは神奈川県障害者支援施設で犯罪事件があり、知的障害者に接するのに適さなかったのか。向き、不向きもあろうが、善良な全ての施設職員はその職場に適さなければ自分から身を引くとか、更に専門性を高める努力をすとかあると思う。福祉の職業は特殊なところがあり、資格要件もある。福祉等の専門分野以外の学卒者は二年以上実務経験(見習い期間)の後、この仕事に合った正規の資格があると見なされるのであって、職員の育成には時間のかかるものです。

以前は「電話口」に出なければ連絡がとれないが、今はポケットに電話があり、スマホ片手に勤務するな



ど考えられなかった。

現代の文明の利器、人工知能に支配されているようなもので自動通訳、自動コミュニケーションとか自動判断機能などもっと発達すれば自分の判断でなく機械の判断に頼る割合が多くなる。

そして事件、事故などの判定は機械任せとなりはしないか。将来のことなので不安がっても仕方がないのですが。

職員採用の時は、障害者にどの位の理解度があるかを伺って、理解度の薄い人は採用しないと心がけていますが、特に、震災後の福祉関係の就活は応募が無いと聞きますのでこの仕事に向かない人の採用も在り得ることかとも思います。

授産施設など福祉的倫理の専門性は勿論のこと、扱う自主製品に対する専門性、外注製品の正確な作業の目配りなど工賃アップの為に生産性の向上のための議論がどうしても損得にも関わるので優先的にならざるを得ません。

どんな職業も同じだと思いますが、プロとして信頼のおける幅の広い人に成長するための研鑽と努力が必要です。障害福祉は利用者の自分らしい暮らしの実現へ向けて、その人に合った良い居場所を求めて、「生活と就労」に対する支援の充実の為、人工知能の活用も含めながら、思いのこもった提案をしていきたいと考えております。

太陽学園

10/24 (H27) いも煮会

10/24、晴天に恵まれ（少し暑いぐらいでしたが）、毎年恒例の芋煮会を行いました。あづまライオンズクラブの方々より食材を沢山いただき、利用者の方々が、芋煮をつくりました。たくさんの具材から出るダシでどの班も絶品の芋煮になりました。



プレゼント交換後の一コマ



12/17 クリスマス会

寒くてちぢこまってしまう季節ですが、なぜかクリスマスシーズンは気分がうきうきしています。日頃作業に取り組んでいる利用者の方々は、思いっきりこの日をたのしみました。サンタクロースに変装した施設長からプレゼントをもらい、皆ご満悦。職員も変装して場を盛りあげます。



1/16 新年会

年明けすぐに新年会が開催されました。友の会が中心となり、皆を楽しませる為に色々企画してくれました。役員の名前の付いた賞が抽選で当たりました。料理もとてもおいしく一年を乗り切る為の活力を養いました。



5/20 運動会

晴天の下、福島市信夫ヶ丘競技場で太陽学園・福島おおなみ学園の合同運動会が行われました。広い運動場、おいしい空気、心地良い風、皆の笑顔、思う存分体を動かして良い汗を流しました。



9/8・9 旅行

南三陸方面に行って来ました。石ノ森萬画館、海の杜水族館を見学したり、砂金とり、笹かまぼ焼き体験などもしました。夕食はとても豪華でした。旅行終了後、もう「来年はどこへ行くんですか」という声も…。



福島おおなみ学園

ともだち広場

福島おおなみ学園では、2016年より利用者の皆様のリフレッシュを図る事を目的として、余暇時間に、おやつの時間や外出を行う「ともだち広場」を月2回行っております。外出では月毎に少人数グループでカラオケやボウリング、工場見学等に外出され、利用者の皆様はワクワクしながら楽しめました。



利用者の皆様は笑顔でともだち広場に参加されておりました。



合同反省会

3月18日(金)～3月19日(土)ホテル聚楽にて、1年の総決算である太陽学園・福島おおなみ学園合同反省会が盛大に行われました。1年を振り返りつつ、講演や余興、大抽選会、宴会、温泉と楽しみ盛り沢山の行事となりました。利用者の皆様は満足されておりました。



日帰り研修旅行

6月17日(金) 日帰り研修旅行を行いました。今回は仙台&松島コースで、去年オープンした「仙台うみの杜水族館」では大迫力のイルカショーや様々な展示の見学、「松島大観荘」の昼食バイキングや松島の絶景等を観て、利用者の皆様は大満足でした。「また行きたいなあ」と利用者の皆様から感想もこぼれ、充実した日帰り研修旅行となりました。

ハンドベル

福島おおなみ学園ハンドベルリンガーズは11月22日(日)「全国ハンドベルフェスティバル」、11月29日(日)「福島県ハンドベル大会」、12月10日(木)「日赤ハンドベル」、年が変わり2月13日(土)「第17回ふれあいコンサート」、7月17日(日)「第34回ハンドベルフェスティバルin宮城」と福島おおなみ学園ハンドベルリンガーズ参加利用者の皆様は積極的に活動を行われております。



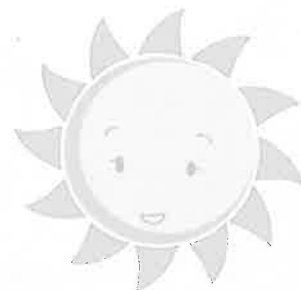
日中活動

生活介護の活動では新たな活動が平成28年度より開始となりました。一つは農耕作業です。震災以降中断していた活動でしたが再開致しました。今年度はナスやピーマン、トマト、玉ねぎ、里芋、枝豆等の野菜を栽培し、保護者会や学園祭で販売する事が出来ました。もう一つは音楽を楽しむという事で毎週水曜日にピアノ講師に来て頂いて、利用者の皆様は、仲良く色々な歌を楽しく歌われております。

平成27年度

事業報告

社会福祉法人 太陽学園



1. 施設の運営管理

社会福祉事業を推進するに当たり、利用者の基本的人権を尊重し、施設環境の保全に努め、生活の場として快適な日々を過ごせるよう努めた。更に、社会参加の向上を図る一環として福島市中央学習センター・福島市立福島養護学校主催の在宅知的障害者の社会参加の育成事業のしゃくなげ青年講座へ参加し成果をあげました。

拠点区分

	事業	定員
本部		
太陽学園	生活介護 就労継続支援B型 特定相談支援事業 日中一時支援	20 30 5
おおなみ学園	生活介護 就労継続支援B型 施設入所支援 短期入所事業 共同生活援助	30 20 50 4 5

消火避難訓練及び防災設備の訓練等

- ① 月1回火災、地震等を想定して消火・避難訓練を実施した。
- ② 年1回消防設備法定点検を実施した。
- ③ 福島消防署による防火設備等の立入検査並びに防火管理体制検証を受けた。

2. 利用者の処遇について

施設利用者及び地域居住者等の障害の特性に照らして、個々に適した生活支援、職業指導、健康管理及び必要な機能訓練を行うほか、自立支援の充実と処遇向上のために努めた。

(1) 処遇方法の対応

年度当初において、施設利用者個々の態様に応じた支援計画に基づき支援の実施。

また、本人活動の会を基に、安心して施設又は地域生活を送るために、相談し社会性を高める。

太陽学園

就労継続支援B型(定員30 現員30)365人利用

生活介護(定員20 現員19)202人利用

特定相談支援事業所(特定…知的障害)

日中一時支援 定員5人 福島市、40人利用

福島おおなみ学園

生活介護30名

就労継続支援B型20名、

施設入所支援50名、

短期入所 定員4名

伊達ホーム 定員5名、現員4名

(2) 各種訓練の実施

- ① 自主通勤により施設利用者の社会適応性の向上促進。
- ② 社会見学
太陽学園 9月10～11日 東京スカイツリー・下町浅草散策
福島おおなみ学園 9月17日 横浜一泊
- ③ 家族との交流を深めるため、次の日程により家庭実習訓練を実施した。
ゴールデンウィーク 4月29～5月6日
太陽は暦通り
夏季 8月14日～17日
冬季 12月28日～1月4日
- ④ 音楽訓練等の発表
太陽学園・おおなみ学園
ハンドベルフェスティバル
山形大会(山形テルサ) 7月13日
ハンドベルコンサート
福島大会(福島市公会堂) 11月29日
アンテナショップハンドベル
授産振興会(福島銀行本店) 12月13日

おおなみ学園

ハンドベル全国フェスティバル

昭和女子大記念講堂 11月16日

ハンドベルコンサート

福島大会(福島市公会堂) 11月29日

成蹊高校ふれあいコンサート 2月13日

⑤ 地域との交流

自主製品の販売等を通して、PRを兼ねて地域交流に向けている。原発事故問題以降の風評被害もあり、食料品関係を扱う場合の厳しさは管理をより厳格に実施している。

3. 各種行事・催し物・業務の実施

- 毎月実施したもの 誕生会、避難訓練
- 随時実施したもの 自主製品出向販売、バーゲンセール外注品運搬
- 季節ごとに実施したもの
5月の節句、芋に会、クリスマス会、新年会、節分、雛祭り
- 福島県スポーツ大会 郡山市 5月17日
- 太陽・おおなみ合同運動会 5月23日
- 福島市障害者スポーツ大会 10月10日
- 平成27年度福島市障害者週間記念事業ふれあいのつどい12月5～7日及び第41回福島市福祉作品展12月5～7日 福島市アオウゼ
- しゃくなげ青年講座(福島市)への参加

4. 健康管理

- ① 結核検診、成人病検診、年2回(おおなみ学園)
- ② 体重測定 毎月
- ③ 嘱託医の出務 太陽学園年3回、福島おおなみ学園毎月2回出務して、施設利用者の健康管理及び機能回復に当たった。

5. 給食

- (1) 嗜好調査を基に献立に反映させた。
- (2) 毎月1回給食委員会を実施し、施設利用者の要望等を取り入れ献立をたてた。
- (3) 施設利用者の要望により、調理実習も取り入れ選択メニューを実施した。

6. 就労継続支援B型事業所(就労活動)について

工賃配分実績

太陽学園	年間事業収入	14,381,098円
	工賃支払い	5,608,220円
	延べ人数	365人
	平均月額	15,365円
福島おおなみ学園	年間事業収入	9,489,899円
	工賃支払い	3,739,210円
	延べ人数	240人
	平均額	15,580円

7. 生活介護事業所 授産活動について

太陽学園	授産活動年間事業収入	645,600円
	工賃支払い	645,600円
	延べ人数	202人
	平均月額	3,196円
福島おおなみ学園	授産活動年間事業収入	1,191,061円
	工賃支払い	1,191,061円
	延べ人数	360人
	平均額	3,309円

	太陽学園		おおなみ学園	
	回数	人数	回数	人数
法人関係の研修会苦情委員会	2	2	2	2
県及び研修センター主催研修会	8	8	8	8
研修団体(全国・東北)主催研修会	4	4	4	4
その他各種団体主催研修会	30	30	10	10
ハンドベル4連盟交流研修職員	3	10	4	15
利用者	3	40	4	30
地域学習センター等支援職員	13	15		
年間15回 利用者	14	120		
自主製品販売・委託品搬入出	平日	300	平日	100

8. ひまわり祭(太陽・おおなみ合同開催10月17日)

9. 関係団体との連携

- (1) 関係機関団体に対しては連携を密にすると共に関連他の施設との連携に努めた。
- (2) ボランティアの積極的に受け入れた。

10. 役員会の実施

理事会、評議員会、監事会の開催

11. 一般事業実施報告 略

平成27年度 社会福祉法人太陽学園財務報告

全体財産目録 平成28年3月31日現在

法人名 社会福祉法人太陽学園

単位：円

資産の内訳		金 額	負債の内訳		金 額
Ⅰ 資産の部			Ⅱ 負債の部		
1 流動資産			1 流動負債		
現金預金		286,641,221	事業未払金		4,215,401
事業未収金		36,749,140	1年以内返済予定リース		790,944
貯蔵品		271,271	預り金		1,638
商品・製品		389,135	職員預り金		143,774
仕掛品		138,009	賞与引当金		2,337,246
原材料		122,682	未払消費税		352,900
立替金		425,923	流動負債計		7,841,903
前払金		52,380	2 固定負債		
流動資産計		324,789,761	リース債務		3,163,776
2 固定資産			退職給付引当金		17,584,520
(1)基本財産			固定負債計		20,748,296
土地		39,324,912	負債合計		28,590,199
建物		196,998,481	差引純資産		1,019,315,925
基本財産計		236,323,393			
(2)その他の固定資産					
土地		13,450,000			
建物		21,837,369			
構築物		15,721,651			
車輛運搬具		5,021,319			
器具及び備品		18,496,410			
有形リース資産		3,756,984			
ソフトウェア		135,960			
退職給付引当資産		10,736,312			
人件費積立資産		65,904,455			
修繕積立資産		17,990,114			
備品等購入積立資産		17,003,880			
建設積立資産		13,000,000			
退職給付積立資産		6,848,208			
その他の積立資産		276,630,703			
差入保証金		50,000			
長期前払費用		209,605			
その他の固定資産計		486,792,970			
固定資産計		723,116,363			
資産合計		1,047,906,124			

監事監査報告書

平成28年3月30日

社会福祉法人太陽学園
理事長 武田 昌 毅

私ども監事らは、社会福祉法人太陽学園の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの理事の業務執行状況及び財産の状況について平成28年3月30日監査を行いました。

(1) 事業報告書は、関連する法令及び通知に従い、当法人の事業の執行を正しく示し、不審の生じないものと認めます。
(2) 財産目録は、関連する法令及び通知に従い、当法人の財産を正しく示し、不審の生じないものと認めます。
(3) 貸借対照表は、関連する法令及び通知に従い、当法人の資産と負債の状況を正しく示し、不審の生じないものと認めます。
(4) 収支計算書は、関連する法令及び通知に従い、当法人の収入と支出の収支を正しく示し、不審の生じないものと認めます。

以上、平成27年度の社会福祉法人太陽学園の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書については、関連する法令及び通知に従った監査の結果、不審の生じないものと認めます。

監事 安倍 重男
監事 菊嶋 健一

貸借対照表 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

資産の部				負債の部			
科 目	当年度末	前年度末	増 減	科 目	当年度末	前年度末	増 減
流動資産	324,789,761	301,438,988	23,350,773	流動負債	7,841,903	20,959,527	△13,117,624
固定資産	723,116,363	725,804,517	△2,688,154	固定負債	20,748,296	22,965,857	△2,217,561
				負債の部合計	28,590,199	43,925,384	△15,335,185
				純資産の部			
				基本金	140,719,228	140,719,228	0
				国庫補助金等特別積立金	114,978,806	120,866,847	△5,888,041
				その他の積立金	117,878,449	117,881,714	△3,265
				次期繰越活動増減差額	645,739,442	603,850,332	41,889,110
				純資産の部合計	1,019,315,925	983,318,121	35,997,804
資産の部合計	1,047,906,124	1,027,243,505	20,662,619	負債及び純資産の部合計	1,047,906,124	1,027,243,505	20,662,619

社会福祉法人太陽学園役員構成

理 事	評議員	武田 万昌	監 事	安倍 重男	評議員	野地 信一
理 事	評議員	渡辺 光子	監 事	菊嶋 健一	評議員	佐川 裕也
理 事	評議員	鈴木 君子			評議員	高橋 正幸
理 事	評議員	阿部 弘			評議員	大石 康弘
理 事	評議員	武田 秀則			評議員	佐藤 行男
理 事	評議員	高橋 英男			評議員	新谷 義隆
理 事	評議員	島貫 忠勝			評議員	佐藤 初子
理 事	評議員	佐藤 一夫			評議員	二階堂俊美
					評議員	森田 久弥

社会福祉事業区分 資金収支内訳表 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

単位: 円

勘定科目		法人本部	太陽学園	福島おおなみ学園	当年度決算
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	14,846,698	10,542,945	25,389,643
		障害福祉サービス等事業収入	76,100,060	159,537,954	235,638,014
		経常経費寄付金収入	3,973,750		3,973,750
		受取利息配当金収入	10,008	88,691	
		その他の収入	3,000	3,778,072	5,514,218
	事業活動収入計(1)		3,986,758	94,772,279	171,902,736
	支出	人件費支出		53,034,896	119,591,208
		事業費支出		13,105,486	38,785,748
		事務費支出	781,390	4,148,536	14,752,443
		就労支援事業費用支出		15,750,459	9,087,518
		事業活動支出計(2)	781,390	86,039,377	129,182,021
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		3,205,368	8,732,902	42,720,715
施設整備等による収支	収入	施設整備等寄付金収入	2,500,000		2,500,000
		施設整備等収入計(4)	2,500,000	0	2,500,000
	支出	固定資産取得支出		2,014,470	15,190,520
		ファイナンス・リース債務の返済支出			593,208
		施設整備等支出計(5)		2,014,470	15,783,728
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		2,500,000	△2,014,470	△15,783,728
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	13,908	2,324,868	593,280
		拠点区分間繰入金収入	781,212		781,212
		その他の活動収入計(7)	795,120	2,324,868	593,280
	支出	積立資産支出	4,007,297	508,268	739,249
		拠点区分間繰入金支出		108,620	672,592
		その他の活動による支出			13,180
		その他の活動支出計(8)	4,007,297	616,888	1,425,021
	その他の事業活動支出計(9)=(7)-(8)		△3,212,177	1,707,980	△831,741
当期資金収支差額計(10)=(3)+(6)-(9)		2,493,191	8,426,412	26,105,246	37,024,849
前期末支払資金残高(11)		12,745,017	95,189,408	174,414,568	282,348,993
当期末支払資金残高(10)+(11)		15,238,208	103,615,820	200,519,814	319,373,842

社会福祉事業区分 事業活動内訳表 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

単位: 円

勘定科目		法人本部	太陽学園	福島おおなみ学園	当年度決算	
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	14,846,698	10,542,945	25,389,643	
		障害福祉サービス等事業収益	76,100,060	159,537,954	235,638,014	
		経常経費寄付金収益	3,973,750		3,973,750	
		その他の収益		2,932,868	116,002	3,048,870
		サービス活動収益計(1)	3,973,750	93,879,626	170,196,901	268,050,277
	費用	人件費		51,106,282	66,910,178	118,016,460
		事業費		13,105,486	38,785,748	51,891,234
		事務費	781,390	4,148,536	14,872,464	19,802,390
		就労支援事業費用		16,260,468	9,016,715	25,277,183
		減価償却費		3,505,295	18,669,396	22,174,691
国庫補助金等特別積立金取崩額			△1246583	△4641458	△588041	
サービス活動費用計(2)	781,390	86,879,484	143,613,043	231,273,917		
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		3,192,360	7,000,142	26,583,858	36,776,360	
サービス活動外	収益	受取利息配当金収益	10,008	47,449	88,691	146,148
		その他のサービス活動外収益	3,000	845,204	1,617,144	2,465,348
		サービス活動外収益計(4)	13,008	892,653	1,705,835	2,611,496
	費用	投資有価証券評価損		1,000	1,000	2,000
		サービス活動外費用計(5)		1,000	1,000	2,000
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	13,008	891,653	1,704,835	2,609,496	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		3,205,368	7,891,795	28,288,693	39,385,856	
特別増減の部	収益	施設整備等寄付金収益	2,500,000		2,500,000	
		拠点区分間繰入金収益	781,212		781,212	
		拠点区分間固定資産移管収益	120,248,305		120,248,305	
		特別収益計(8)	123,529,517		123,529,517	
		費用	固定資産売却損・処分損		1	10
	拠点区分間繰入金費用			108,620	672,592	781,212
	拠点区分間固定資産移管費用				120,248,305	120,248,305
	特別費用計(9)			108,621	120,920,907	121,029,528
	特別増減差額(10)=(8)-(9)		123,529,517	△108,621	△120,920,907	2,499,989
	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		126,734,885	7,783,174	△92,632,214	41,885,845
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		△83,496,677	167,117,830	520,229,179	603,850,332
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		43,238,208	174,901,004	427,596,965	645,736,177
	基本金取崩額(14)					
	その他の積立金取崩額(15)			5,916	1,000	6,916
	その他の積立金積立額(16)			2,435	1,216	3,651
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)+(16)		43,238,208	174,904,485	427,596,749	645,739,442

平成28年度社会福祉法人太陽学園事業計画

みんなちがって、みんないい

第1 事業の目的及び方針

1.目 的

当法人は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

- 1 社会福祉法人太陽学園 本部(太陽学園内)
- 2 (太陽学園拠点事業所)指定障害福祉サービス事業

(1) 生活介護事業(定員20名)

利用者の意思決定に基づいたその人らしい生活が営むことができるよう支援し、創作的活動又は生産活動の機会の提供、その他の便宜を行います。

(2) 就労継続支援B型事業(定員30名)

利用者の働く意欲を尊重し、その人に合った生産活動の場を提供する。また、社会生活における習慣の習得ができるよう必要な訓練及びその他の便宜を行います。

(3) 特定相談支援事業

相談支援事業所としての在るべき姿を常に検討し・反省し、利用者の意向に十分に応えることができるよう、相談支援の向上を図ります。

(4) 日中一時支援事業(生活介護 定員5名)

3 (福島おおなみ学園拠点事業所)障害者支援施設事業

(1) 生活介護事業(定員30名)

利用者の意思決定に基づいたその人らしい生活が営むことができるよう支援し、創作的活動又は生産活動の機会の提供、その他の便宜を行います。

(2) 就労継続支援B型事業(定員20名)

利用者の働く意欲を尊重し、その人に合った生産活動の場を提供する。また、社会生活における習慣の習得ができるよう必要な訓練及びその他の便宜を行います。

(3) 施設入所支援事業(定員50名)

利用者が日中活動と併せて夜間においてその人らしい生活を営むことができるよう、入浴、排泄及び食事の介護等の便宜を行います。

(4) 障害福祉サービス事業 短期入所事業所福島おおなみ学園(定員4名)

居宅においてその介護を行う者の疾病その他の理由により、短期間の入所を必要とする利用者、短期間の入所の提供を行います。

(5) 指定共同生活援助事業伊達ホーム(定員5名)

2.方 針

(1) 利用者の意思及び人格、権利を尊重し、もてる能力を充分に発揮させ、また維持しながら社会参加、生きがいを得るための適切な援護、擁護及び訓練を行い、自立意欲の涵養に努める。

(2) 施設の社会化を推進し、地域との交流を進めると共に、障害者に対する社会の理解が得られるよう努める。

(3) 法人及び施設の事務、事業の改善のための提案制度を奨励し、事業の活性化を図る。

(4) 職員処遇の最善に努める。

第2 施設の運営管理について

1. 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」(障害者総合支援法)に基づき指定を受けた施設・事業所は障害者総合支援法等の関係法令を遵守し、施設の運営管理に努める。

2. 施設はできる限り居宅に近い環境のなかで、地域や家庭との結びつきを重んじた運営に努める。

3. 障害者支援施設等においては、施設としての支援計画を定め、サービス管理責任者を配置し、利用者の心身の状況や希望等に応じた「個別支援計画」を作成し支援にあたる。

4. 施設環境の整備と保全に努める。

第3 地域の在宅要援護者等に対するサービスについて

福島おおなみ学園指定短期入所事業所として、要援護状態または要支援状態にある知的障害者に対し適正かつ総合的な指定居宅支援を提供するため、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービス事業所との連携を図り、要支援者の特性を踏まえて、その有する能力に応じ自立に向けた日常生活を営むことができるよう支援計画の作成に努める。

第4 居宅支援サービスの運営管理について

グループホーム(共同生活援助)は居宅支援サービスの一つとして実施する。

第5 法人の社会福祉法施行に伴う対応について

1. 利用者本位の福祉サービス提供を実現させるために苦情解決体制の推進を図り、サービスの質の向上に努める。

2. 利用者主体のサービスの向上に努める。

3. 公正・公平な事業運営と利用者のサービス選択に資するため、サービスの内容に関する情報の提供、財務諸表及び事業報告等の開示を行い、事業の透明性に努める。

4. 利用者に対する人権の擁護及び虐待の防止等のため、必要な体制を整備するとともに、職員に対しては研修を実施するなどの措置を講ずる。

5. 職員がその業務上知り得た利用者及びその家族に関する個人情報については、その秘密を保持するとともに、職員でなくなった後においてもその秘密が保持されるよう措置を講ずる。

第6 利用者へのサービス提供について

1. 利用者個々の自主性・独立心を損なうことなく、そのニーズを確実に把握し、その者に適応した支援方針を作成し、日常生活支援、健康管理、相談、社会的活動支援、職業提供支援等を行い適切なサービス提供に努める。

2. 利用者の社会活動への参加促進を図る。

3. 障害者総合支援法に基づく見直し等の移行に係る、受給者票取得等のための諸手続きに協力して頂く。

第7 就労継続支援等について

1. 就労継続支援事業(B型)は、一般企業等の雇用に結びつかない利用者が就労の機会等を通じ生産活動に関する知識や能力の向上を図る。また、利用者が参加できる作業内容を整え、作業を通して社会経済活動に参加することにより、働くことの自覚と喜びを見つけ、利用者自身が社会参加への方向性を見つけられるよう支援に努める。

2. 一般就労も視野に入れ、職業相談、職場開拓、職場実習等の支援を行い、地域の中で働くことができるよう、体制作りを努める。

3. 生産品の開拓に努める。

4. 利用者の障害程度や適正、能力等に応じた職種を開拓し、地域企業等との連携を図りながら、受注の確保に努める。

5. 係る製品の品質管理に、衛生管理に配慮し、良い製品の納入、販売に努める。

6. 作業の安全管理に万全を期する。

7. 利用者の作業工賃は、「福島県障がい者工賃向上プラン」を目指し努力する。

第8 生活支援について

1. 地域参加の機会を多く設け、多くの人とのかかわりを通して社会性の育成を支援する。

2. 利用者の日常生活を変化と潤いのあるものにするため、新聞、テレビ等を備えるほかレクリエーション及び季節の行事等を実施し、社会人として自立できるよう支援する。

3. 利用者の日常を観察し、実態把握に努めながら、能力に応じた生活目標をたて主体的な生活が高まるよう支援する。

4. 利用者の自主性と責任ある行動育成のため、自治組織等の推進を図る。

5. 利用者家族とのコミュニケーションを密に行い、連休、お盆休暇、年末年始休暇等には可能な範囲で帰省を支援し、ふれあいを深める。また、福祉事務所との連携において、家族との連絡調整をも図る。

6. 地域生活移行を利用者と家族の意向を尊重しながら支援する。

第9 健康管理について

1. 常に利用者の健康状態を把握し、健康状態に異常のある者には特に細心の注意を払い、必要に応じた適切な健康管理にあたる。

2. 毎月体重測定及び必要とする者に対して血圧測定を行い、嘱託医との連絡を密にし、また、定期的な健康診断等を実施し、病気の予防並びに早期発見に努める。

3. 利用者の健康保持のため、衛生管理と環境の整備に努める。

第10 給食について

1. 献立は、十分な栄養と変化に富んだ内容とし、かつ利用者の生活習慣病予防、肥満について配慮し、減塩、菜食などに取り組み、個々の健康状態も評価、判定し、栄養基準量の適性量の確保に努める。

2. 給食委員会を毎月開催し、利用者の希望等を勘案するほか嗜好調査を年1回以上実施し、献立に努める。

3. 毎日残菜調査を行い、利用者の嗜好を把握するとともに偏食等のは是正の改善に努める。

4. 給食には行事食並びに旬のものを取り入れ、家庭的な味付けを大切に、季節色豊かな献立に努める。

5. 選択メニューを積極的に取り入れ、利用者に楽しさを提供する。

6. 食品の保管には、十分に注意し、常時、整理整頓、清潔に気を配り食中毒の予防について万全を期す。

第11 事故防止について

1. 年2回の防災設備の法定点検と非常口、防火扉等建物の定期的な自主点検に加え、利用者の使用している電気器具の点検を実施し、事故発生の絶無と事故防止の徹底を図る。

2. 法人施設間、職員間のほか、地域防災協力者、地域消防団など地域の人々の協力を要請し設置している緊急連絡体制が、有事の際、迅速、有効に機能するよう訓練の充実を図る。

3. 火災、地震、水害等の非常災害時に利用者、職員が迅速、適切な避難行動がとれるよう訓練の充実を図るとともに、防災教育及び安全管理を徹底させる。

4. 事故防止のため建物内の巡視を日常的に実施し、園内及び居室等の危険箇所や危険物等の早期発見に努める。

5. 作業及び訓練中の事故の絶無に努める。

6. 通院、製品の納入、事務連絡等公用車使用の際には、交通ルールを遵守し、シートの着用、子供や高齢者に対する思いやり運転など安全運転を心がけるとともに、交通事故の絶無に努める。

第12 職員の資質の向上について

1. 各研修会等に積極的に参加させ、また先進種の施設の視察を行い、施設内においては、社会福祉事業従事者としての職業観に立って、専門知識の修得と実務体験の積み重ねを通して、自己研鑽をしながら、資質の向上に努める。

2. 職員相互の意思疎通をはかり、組織人として責任と協調性のある連帯意識をもって人間性豊かな職場環境づくりに努める。

3. 社会福祉士、介護福祉士等の各種資格取得を奨励と支援に努める。

4. 虐待防止のための措置に関する事項について障害者等の人権の擁護、虐待の防止等のため必要な体制整備を行うとともに研修を実施する等措置を講ずるものとする。

第13 関係機関、団体との連携について

1. 関係機関団体に対し連携を密にすると共に関連他施設との連携に努める。

2. 地域社会の理解と協力を求め、利用者の幸せと障害福祉の推進に努める。

3. ボランティアの積極的な受け入れ、相談援助実習生等の受け入れ

第14 施設の整備等について

第15 予算の執行

予算の執行にあたっては、適切な計画のもと適切に執行し、健全な運営に努める。

平成28年度 太陽学園 園内研修会

平成28年9月30日(金)事業所内で、利用者の虐待防止、権利擁護に関する研修会が行われました。研修会では施設長から利用者の方々への支援についての注意点、説明が有り、担当職員から資料を基に職員として利用者の皆さんとどう関わっていくかの確認、話し合いを行いました。今後もこの様な勉強会を通じて、職員一人一人のスキルアップと意識の統一を行い、利用者の皆さんに対し充実した支援を行える様にと考えております。



平成27年度 社会福祉法人太陽学園 「苦情解決に関する報告会」

平成28年1月27日(水)に、太陽学園内において「平成27年度苦情解決に関する報告会」が行われました。各事業所より1年間の苦情についての事例を持ち寄り、利用者代表の方、第三者委員、関係職員でケースの確認、解決結果の過程報告を行いました。平成27年度のケースは計3件、利用者の方の通所に関するケース、夜間居室での過ごし方に関するケース、事業所内におけるご本人との意思疎通に関するケースについて各担当職員がどの様に対応し解決に向かったのかをディスカッションし、真剣な話し合いが行われました。第三者委員の方々からは「利用者の皆さんが困らぬ様、芽が小さいうちに動く事が大切」「ルールを守り生活するといった事が基本だが、職員が本人に寄り添い接していく事が大事」とのご意見が有り今後の活動についてのアドバイスをいただきました。



平成28年度 しゃくなげ青年講座 年間学習計画

回	開催日	曜日	学 習 内 容	会 場
1	5/29	日	開講式・オリエンテーション	中央学習センター
2	6/12	日	屋内レクリエーション	市立福島養護学校
3	7/10	日	まちの施設を利用しよう① ～プラネタリアム～	こむこむ館
4	7/31	日	まちの施設を利用しよう② ～カラオケ～	歌うんだ村福島店
5	8/21	日	福祉作品展に向けて作品を作ろう	中央学習センター
6	9/11	日	お金の学習をしよう	中央学習センター
7	10/2	日	中央地区文化祭に参加しよう	中央学習センター・公会堂
8	10/30	日	秋のボウリング大会	からしまボウル福島
9	11/20	日	中央学習センターの掃除をしよう	中央学習センター
10	12/11	日	クリスマスパーティーをしよう	中央学習センター
11	1/22	日	冬のお楽しみ会 雪あそびをしよう!!	塩沢スキー場
12	2/19	日	音楽を楽しもう!!	中央学習センター
13	3/12	日	開講式・1年間を振り返ろう	中央学習センター

【しゃくなげ青年講座関連事業】

- ◇福島市障がい者スポーツ大会 10月8日(土) 予定 ※雨天中止
◇第42回福島市福祉作品展 12月3日(土)～5日(月)

法人苦情解決担当者一覧

太陽学園	苦情解決責任者	園長 武田 万昌
	苦情解決担当者	森田 久弥
福島 おおなみ学園	苦情解決責任者	園長 武田 秀則
	苦情解決担当者	齋藤 慎
伊達ホーム	苦情解決責任者	園長 武田 秀則
	苦情解決担当者	高野 憲一
法人 第三者委員	安部重男・菊嶋健一・大石康弘	

事業所内の苦情について

法人3事業所内におきまして苦情がありましたら、各苦情担当委員(又は身近な職員)までご相談をお願いします。なお、各事業所内に掲示、苦情箱を設置しておりますので、そちらの方も気軽にご利用下さい。